

神戸大学大学院 経営学研究科
教授

國部克彦様



大阪市立大学大学院経営学研究科後期博士課程修了。博士(経営学)。
大阪市立大学助教授、神戸大学助教授を経て、2001年より神戸大学大学院
経営学研究科教授。2014年より同研究科長。
ISO/TC207/WG8議長、日本MFCAフォーラム会長などを務める。
主な著書に、『低炭素型サプライチェーン経営』(中央経済社、2015年)、『マテリア
ルフローコスト会計』(日本経済新聞出版社、2008年)、『環境経営・会計』
(有斐閣、2012年)などがある。

バランスの取れた環境戦略

環境問題は、地球環境問題という人類の物理的な生存に影響する側面だけでなく、人間の生活の質の向上という側面を持ちます。これはどちらも非常に重要で、NTT西日本のような情報通信産業はこの2つの側面に注力する必要があります。NTT西日本が展開する「環境グランドデザインの達成」は前者、「ICTを通じた環境負荷の低減」や「生物多様性保全活動の促進」は後者に関わるもので、バランスの取れた環境戦略が設定されていると言えるでしょう。

環境グランドデザインの達成

「環境グランドデザイン」については、温暖化対策、紙資源削減、廃棄物削減の3つの分野について、2020年度を目標にした活動を展開されています。報告書からは着実な活動を行っていることは理解できますが、温暖化対策については、2020年の達成目標をいかにして実現するのかが、まだ明確になっていないように思われます。「グリーンNTT西日本戦略」は2012年に設定されており、その後の状況の変化に対応して、目標の妥当性を再検討したうえで、目標達成のための具体的なプランを示すべき時期に来ているように思います。また、主要な環境指標をKPI(Key Performance Indicator)化して、財務指標と並ぶ企業の重要指標として位置づけることも必要と考えます。

ICTを通じた環境負荷の低減

ICTを通じた環境負荷の低減については、「エネファームアプリ」、「光BOX+によるSMA認証取得」、「総合型次世代農業プロジェクト」などの先進的な取り組みの紹介がなされていますが、この分野こそ、情報通信産業のNTT西日本が最も注力すべき環境分野と言えます。事業戦略とも密接に結び付いた領域ですので、中長期的な経営戦略にこのような活動がどのように関連しているのか、将来への投資としてどのように経営判断しているのかのような、経営戦略や経営計画の面からの説明を充実していただければ、ESG(環境・社会・ガバナンス)投資の面からもより高い評価が得られると思います。

生物多様性保全活動の推進

生物多様性保全活動に関しては、「NTT西日本みどりいっぱいプロジェクト」を展開されています。これは「環境CSRビジネス研修」も含めて、NTTの社員の方が自然や社会と関係を深める非常に有意義な活動だと思います。人間は会社の中だけで生きているわけではなく、自然や社会の中で生きているわけですから、このような活動は生活の質を高める意味で非常に重要です。NTT西日本のような地域が限定されている業態では、地域との関係が重要ですので、ぜひ継続して、さらに発展させてほしいと思います。

第三者意見を受けて

本報告書においては、2014年度における環境保全活動の実績データならびに主要な活動を掲載しました。一人でも多くの方にわたくしたちNTT西日本グループの地球環境保護活動についてご理解いただければ幸いです。

また、今回、第三者意見として頂戴しましたコメントを真摯に受け止め、今まで以上に皆様からご理解・ご支持いただけるように努めてまいります。

わたくしたちが日々営んでいる事業活動が、地球環境に大きな負荷を与えていることを認識し、自社の環境負荷を低減するためだけではなく、ICTを活用して人間の生活の質を向上させていき、持続可能な社会の構築に貢献していきます。

西日本電信電話株式会社
技術革新部 環境経営推進室